

## 安全データシート (SDS)

## 1 化学品及び会社情報

製品名 モルホナイド50

## 製造者情報

会社名 サンケミファ株式会社

住所 仙台市青葉区中央3-3-3

電話番号 022-394-3031

FAX番号 022-394-5920

緊急連絡電話番号 022-394-3032

推奨用途及び使用上の制限 動物用医薬品

## 2 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分4
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分1

注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

## 絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報 引火性液体及び蒸気  
飲み込むと有毒  
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

## 注意書き

## 【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。  
容器を密閉しておくこと。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
火災を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

**【応急措置】**

火災の場合には適切な消火方法をとること。

飲み込んだ場合、気分が悪い時は医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合、水で数分間、注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。ただちに医師に連絡すること。

皮膚（又は毛髪）に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

**【保管】**

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。

**【廃棄】**

内容物や容器は、都道府県または市町村の規則に従って廃棄すること。

**3 組成、成分情報**

単一製品・混合物の区別 混合物

組成

塩化ジデシルジメチルアンモニウム	50%
エタノール	≤10%
グリコール類	5%
水	残部

塩化ジデシルジメチルアンモニウム 100%としての情報

化学名又は一般名	ジデシルジメチルアンモニウムクロリド
分子式（分子量）	C <sub>18</sub> H <sub>38</sub> N (362.086)
CAS No	7173-51-5
官報公示整理番号	
（化審法）	(2)-184, (9)-1971
（安衛法）	-

エタノール 100%としての情報

化学名又は一般名	エタノール
別名	エチルアルコール
分子式（分子量）	C <sub>2</sub> H <sub>6</sub> O (46.069)
CAS No	64-17-5
官報公示整理番号	
（化審法・安衛法）	(2)-202

**4 応急措置**

飲み込んだ場合	気分が悪い時は医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに水と石鹼で洗浄すること。医師の手当、診断を受けること。汚染された

眼に入った場合	衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。ただちに医師に連絡すること。
予想される急性症状 及び遅発性症状	データなし
最も重要な兆候 及び症状	データなし

## 5 火災時の措置

消火剤	小火災：噴霧水、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂 大火災：散水、噴霧水、通常の泡消火剤
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	棒状注水 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

## 6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 環境中へ放出してはならない
回収・中和	乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。
封じ込め及び浄化の方法・ 機材 二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。 この製品の誤飲、誤食に注意すること。 皮膚と接触しないこと。 「10. 安定性及び反応性」を参照。
接触回避	
保管	
技術的対策	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。
混触危険物質	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件	直射日光、高温多湿、凍結の恐れがある場所を避け、密閉し、涼しいところで保管すること。施錠して保管すること。
容器包装材料	密閉可能な破損の無い容器を使用する。

## 8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度（ばく露限界値、 生物学的ばく露指標）	
日本産衛学会 ACGIH	未設定 エタノール：TLV-STEL 1000ppm(2013年度版)
設備対策	屋内作業の場合はできるだけ密閉された装置または必要に応じて局所排気装置を使用する。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。保護具は使用后、清浄して清潔に保つ。

## 9 物理的及び化学的性質

外観	無色～黄褐色澄明の液
におい	特異なにおい
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	約41℃
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸 <sup>γ</sup> 相=1)	データなし
比重(密度)	0.930
溶解度	水：混和する
オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし

## 10 安定性及び反応性

安定性	一般的な貯蔵・取扱い条件（室温・常圧）において安定である。
避けるべき条件	加熱、燃焼
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、窒素性ガス(NOx)

## 11 有害性情報

製品の有害性情報	データなし
塩化ジデシルジメチルアンモニウム100%としての情報	
急性毒性	

経口	ラット LD50値 = 190.4 mg/kg
経皮	ラット LD50値 = 2,344 mg/kg
吸入(蒸気)	データなし
吸入(ミスト)	データなし
皮膚腐食性及び 皮膚刺激性	ウサギの皮膚に腐食性ありとの評価 (HPVIS(2009))
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	ウサギの眼に腐食性ありとの評価 (HPVIS(2009))
呼吸器感作性	呼吸器感作性：分類できない
又は皮膚感作性	皮膚感作性：接触アレルギー物質 (Contact Dermatitis (5th, 2011))
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	ラットの急性経口毒性試験 (100-400 mg/kg) において、不活発、流涙、下痢、衰弱の症状が見られ、死亡例の剖検では胃の褪色及び出血、腸に赤褐色内容物、肝臓の暗色化がみられた (HPVIS(2009))。
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	ラットに13週間、マウスに78週間混餌投与した試験では、いずれも区分2を上回る用量 (155.5-255.5 mg/kg/day) で、体重及び体重増加量の低下がみられ、ラットでは加えて肝臓、腸間膜リンパ節に組織学的所見がみられたのみであった (HPVIS(2009))。
吸引性呼吸器有害性	分類できない

## 1 2 環境影響情報

水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	廃棄物の処理を委託する場合、内容物を完全に除去すること。 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 1 4 輸送上の注意

国内規制	陸上規制情報	消防法の規定に従う。
	海上規制情報	船舶安全法、港則法の規定に従う。
	航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別の安全対策		容器に衝撃を加えたり、引きずる等の乱暴な取扱いをせず、転倒、落下、破損しないように積載する。輸送に際しては、直射日光、高温多湿を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

## 15 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（エタノール，法第57条の2，施行令第18条の2別表第9）
化学物質排出把握管理促進法（化管法）	第1種指定化学物質（ジデシル（ジメチル）アンモニウムの塩，管理番号642）
毒物劇物取締法	非該当
消防法（危険物）	非該当

## 16 その他の情報

## 参考文献

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編, 無機編, 有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

本データシートは当社の持つ知見をもとに十分注意を払って作成しております。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。

この情報は新しい知見及び試験等により改訂されることがあります。

記載した適用法令は、すべての規制、法令を示すものではございません。各地域の条例や使用する用途に関する規制・条例などは、本品のご使用者をご確認下さい。

記載内容は通常の使用状態におけるものであり、特殊な条件下での安全性、引用文献の内容全ての生体影響の網羅を保証するものではありません。使用におかれましては、適用法令に従うと共にこの安全データシートを参考に、自社の使用に即した取扱い上の注意を検討確立し、安全に使用して頂くようお願い致します。